小学校での防災教育の支援を通じた自主防災組織の活性化策について
～「防災教育支援ガイドブック」の策定～

神戸市消防局（兵庫）　**定岡　由典**
竹中　邦明

1　はじめに

現在、日本各地で自主防災組織の結成及び育成が図られているところであるが、当市においても１５年前から自主防災組織の結成、育成が図られてきたところであり、平成２０年度には市内すべての地区で自主防災組織が結成されるに至った。

しかしながら、自主防災組織の育成にあたっては、訓練参加者の固定化あるいは減少、役員及び参加者の高齢化、役員の方々の世代交代の問題など、今後の活動についてどのようなビジョンで望むのか、当市ならずとも頭を悩ます問題となっている。

そこで当市では、「地域における小学校での防災教育の支援を通じた自主防災組織の活性化」という切り口で自主防災組織のあり方について議論を行い、その成果物として「防災教育支援ガイドブック」を策定したところである。

ここでは、その議論の内容と小学校でのモデル授業の実施、その結果を受け完成した防災教育支援ガイドブックと今後の方針などについて紹介する。

2　経緯

当地域では、１５年前に未曾有の震災を経験し、その時「人と人のつながり」の重要性、「助けあうことの大切さ」など身をもって体験した。

その教訓から、自主防災組織の結成を始め、防災教育の充実（教育委員会が中心となって多数の優れた副読本の開発・作成）、学校と地域が一緒に行う防災訓練の実施など、震災を経験していない世代に震災の教訓を伝えるための活動を積極的に展開してきたところである。

しかしながら、震災時に学校での避難所運営に携わるなど、経験豊かであった団塊の世代の教員の方々が大量に退職され、今後はより「実感できる防災教育」が求められている。

一方、家庭では家族の話し合いが減少し、地域では地域活動への若年層の参加が少なく、参加者のメンバーも固定化、高齢化している。

さらには近年、人を簡単に傷つけたり、自ら命を落とす事件が後を絶たないことから、子ども達に「いのちの大切さ」を伝え、「生きていることの素晴らしさ」を実感できる防災教育が必要であるという認識が社会全体の中で高まってきている。

このようなことから当市では、平成１９年度に消防局、消防職員、教育委員会、小学校教員、防災に関わるＮＰＯ法人などと合同でプロジェクトチームを立ち上げ、学校から家庭へ、家庭から地域へ、地域から学校へとつなげる相乗効果による地域（防災）力の向上を目指し、議論、研究を行ってきた。

３　プロジェクトの概要

議論では、子ども達に対してどのような防災教育メニューが必要か、またどのような形で地域の方や消防署、消防団が関与できるのか、教員ひとりでも実施できるメニューは、またそのための工夫は、などが話し合われ、最終的にはその成果物としてテキストのような冊子が必要との結論になり、平成１９年度末に冊子を発行することとした。

また、そのための準備として、実際に小学校でメニューのいくつかを実践的に行い、冊子作成の参考にすることとした。

新たなメニューの開発については、防災のイベントなどを全国各地で実施しているＮＰＯ法人に協力を依頼し、学習効果が高いと思われるメニューをいくつか提供してもらうこととした。

このような消防局、消防職員、教育委員会、学校教員、ＮＰＯ法人などが一同に会し防災教育について話し合われた取組みは、全国的に見ても先進的なものであるが、今後他都市においても同様の取組みが行われていくと思われる。

そのためには教育委員会の協力が必要不可欠であり、また実践的な内容を話し合うためには、現場教員の意見なども取り入れていく必要がある。

当市の場合、上記に加えてＮＰＯ法人にもメンバーに加わっていただき、行政以外の視点から貴重なご意見をいただき、またメニューの開発についても、斬新的で子ども達の目線から「楽しみながら学べる」工夫といったものを随所に取り入れた「しくみ」などを、冊子作成時の参考にすることができた。

４　モデル小学校での実践

平成１９年度では、まずＮＰＯ法人が開発、作成された教材やメニューが学校現場でも使用可能かどうかを検証するため、市内３つの小学校で実際にその教材やメニューを使った防災教育を実施した。

ここでは、ＮＰＯ法人が開発した防災に関する子供向けＤＶＤコンテンツ２本と、防災カードゲームや防災体操など、今までにない新たなメニューを試行的に取り入れ、協力いただいた学校には教員、子どもそれぞれにアンケートを行い、内容について検証を行った。

当初このようなＮＰＯ法人が開発したメニューを学校で行うことに否定的であった現場教員の方も、実際に体験した子ども達の反応やアンケート結果を見て、今までにない新たな視線からのアプローチとして好意的に受け取っていただくことができた。

このようなモデル実施やプロジェクトチームでの議論を踏まえ、平成１９年３月に、プロトタイプとも言える「防災教育支援プログラム」冊子が完成した。**（写真１「冊子表紙」参照）**

この中では、先の防災カードゲームや防災体操、防災すごろくや防災人形劇など、子ども達が楽しみながら自ら考え、学ぶことができる４２のメニューを採用し、今までにない新しいプログラムとして紹介している。

さらには、平成２０年度には市内１２の小学校でこの冊子からメニューを増やしてモデル授業を実施し、今度はメニューの検証と共に、地域の自主防災組織の方々や消防職員も実際に支援に当たり、連携の方策などについても検証を行った。

５　モデル実施で見えてきた課題等

平成１９年度に３小学校で、そしてプロトタイプの防災教育支援冊子が完成し、平成２０年度には１２小学校、合わせて１５校で防災教育を実施したが、モデル的に実施する中で見えてきた課題がいくつかあった。

まず、プロトタイプで作った冊子では、主に防災教育メニューの紹介のみであったため、実際に教員などが授業を行うには詳細が記載されていないため、冊子のみでは実施が困難であること、また、同様にワークシートや図解資料などがないため教育現場で活用しにくいこと、さらに、内容によっては必要となる資料（例えば「防災○×クイズ」では実際に使用する問題集など）の添付が必要であること、などがモデル実施をしていく上で明らかとなった。

また、実際に授業をしてみると、メニューを体験していない見学時の児童のフォローなどが必要であることが明らかとなり、そのための工夫などを新しい冊子に盛り込むこととした。

（例えば、上記の「防災○×クイズ」では、問題を早期に間違った児童が、その後手持ち無沙汰となりふざけてしまうため、敗者復活問題や、全員で参加できる工夫などを盛り込んだ。）

この他にも、全員で動き回るようなメニューでは、教員以外にも安全管理の人員を配置する必要があることや、地域の方々に支援いただくには、どう関与するのかを具体的に記述する必要があることなどが明らかとなった。

（写真２「モデル授業の内容」参照）

６　冊子を完成させるにあたって

このような結果から、プロトタイプの冊子からより教育効果の高い、使いやすい冊子にするために、平成２０年度中、以下の点について改良を行った。

（１）すべてのメニューに解説書を添付した

新しい冊子では４１のメニューを採用しているが、このすべてのメニューに解説書を添付し、実施者がより使いやすいように改良した。

（２）さらに分かりにくいメニューでは解説ＤＶＤを添付した

また、実際にやっているところを見たほうが分かりやすい１０メニューについては、解説のための映像資料を作成し、ＤＶＤとして添付している。

（３）必要なメニューにはワークシートや図解資料を添付した

実際に授業で実施する際に必要となるメニューには、授業で子ども達が書き込むためのワークシートや、図解資料、指導者用解説なども添付した。

（４）すべてのメニューに「自主防災組織の関わり方」などを記載した

これはプロトタイプの冊子でも記載していたものであるが、すべてのメニューに自主防災組織や消防団の関わり方を記載しており、地域がどのようにして関与していけばよいのか、教員にも自主防災組織のメンバーにも分かるようにしており、この点がこの冊子の大きな特徴となっている。

この他の工夫として、実施するのに必要となる資機材のリストや、注意事項、保護者の参加方法、メニューを行うにあたっての＋αの知識、実際に行った時の子ども達の声なども記載し、実施する際の一助となるようにした。

さらに、当市では優れた防災教育の副読本など既存の教材が多数あるため、このような副読本とメニューについての関連性についても触れ、今実施して

いる防災教育にも配慮したものとなっている。

また、さらなる配慮として、すべてのメニューに新学習指導要領との関連についても記載しており、教員の方が授業を行う上で参考になるようにした。

実際に冊子にする上では、冊子の構成や見やすさ、配色などをデザイン会社に依頼し、ピクトグラムを多用するなど見やすさにおける配慮も行った。

このようにして平成２１年８月に完成したのが第２版となる「防災教育支援ガイドブック」である。**（写真３「冊子表紙」参照）**

７　主なメニューの紹介

冊子はＡ４版オールカラー３１６頁からなり、添付資料としてＤＶＤとＣＤ－Ｒが付属している。

ここでは４１の防災教育メニューの紹介と共に、各種資料として、学校における防災体制の例示や年間防災教育計画の例、自主防災組織や消防団、消防局（消防署）の体制について説明を行っている。

また、防災教育を行う上で参考としてもらうため、自主防災組織が保有する各種防災資機材の解説や、資機材の活用方法（実際の使い方）の図解、さらには防災・消防に関するＱ＆Ａとして、子ども達が質問するような事柄を９７問記載しており、これだけでも十分な資料となっており、教える側の豆知識として活用できるようにしている。**（資料１「冊子の主な内容」参照）**

紹介している４１メニューについては、「震災の教訓を伝えるメニュー」、「知識を伝えるメニュー」、「技を伝えるメニュー」に区分し、それぞれ低・中・高学年ごと、及びクラス単位、学年単位、両方可能なメニューとして一覧表にまとめ、実施時に選択しやすいように表示してある。

（資料２「一覧表」参照）

ここでいくつかのメニューについて紹介する。

【防災カードゲーム「なまずの学校」】

このメニューはＮＰＯ法人が開発、作成した中高学年向け防災カードゲームで、紙芝居形式で問題を提示し、児童らはあらかじめ配った手持ちのカードから、正解だと思うカードを提示し、正解なら得点がもらえるというものである。

（写真４、資料３．４「メニュー・解説編の例」参照）

例えば、地震で家具の下敷きになった人の絵を見せて、救助するのに最適なものを選ぶという問題では、「ジャッキ」や「ロープ」、「フォークリフト」、「地震で壊れた家屋の柱」など、手持ちのカードから一枚選んで出す。

ここでポイントとなるのが、できるだけ「身近にある」もので「手に入れやすい」ものの方が高得点であるということである。

よって、使える人がいないと使用できないフォークリフトは正解だが得点は一番低く、高得点なものとしてはその辺に落ちている家屋の柱、ということになる。（柱をテコの原理で救助する）

この問題は、実際に被災した人たちの体験談などを基に、実際に役立った物などを取入れ作成されており、震災教訓として「こんなものが使えるのか」といった「気づき」や、今あるものを工夫するという「考える力」を養うことができるカードゲームである。

【防災すごろくゲーム「ＧＵＲＡＧＵＲＡ　ＴＯＷＮ」】

このメニューもＮＰＯ法人が開発した中高学年向けすごろくゲームである。

（写真５参照）

ＧＵＲＡＧＵＲＡ　ＴＯＷＮという架空の町で、おつかいで必要な物を買いに出て、一番先にゴールすれば勝ちというすごろくゲームであるが、途中イベントが発生して地震が起こり、その時手持ちのカードから必要な物を正しく選択できれば、好きなお店で買い物ができるという特典が用意されている。

例えば、地震が発生し、けが人が出たというイベントが発生し、その人を運ぶために必要なものを手持ちのカードから選ぶという問題が出た場合、役に立つであろう物、例えば毛布やレジャーシート、寝袋などを選んで１枚出す。

ここでは、手持ちカードにこれといったものがなくても必ず１枚出さなければならず、この過程で、どのようなものが使えそうか考え、学習することができるといった工夫がなされている。

実際にモデル実施の時にも、止血に使えそうなものとして、手持ちの「レインコート」をひも状にして縛って止血する、といった発想をした子どもがおり、あるものを工夫して使うという柔軟な発想が培われるメニューといえる。

【ぼうさいダック】

昨年度の「消防に関する論文」で呉市消防局（広島）葛原・林両氏からもご紹介のあったジェスチャーカードゲームであるが、現在呉市を始め全国各地で実践事例がある。（日本損害保険協会制作）

当市でも小学校低学年用教材として平成１９年のモデル実施で初めて実施したが、教員、児童ともに非常に評判が良く、「楽しみながら学べる教材」として特に有用であったことから、第２版においても採用した。

ガイドブックに掲載する際には、メニューの紹介と共に授業のねらいや進め

方などを記載し、また解説用に映像ＤＶＤを作成し、初めて実施する際の参考となるよう配慮した。**（写真６参照）**

【水消火器で的あてゲーム】

【対決！バケツリレー】

「技を伝えるメニュー」として、上記の他、毛布担架搬送訓練や三角巾によるケガの手当てなど、いわゆる防災訓練メニューも多数掲載しているが、いずれも単なる訓練として実施するのではなく、そこには「楽しみながら学ぶ」工夫が盛り込まれている。

例えば、水消火器による消火訓練では、消火器の使い方の説明の後、ストラックアウトを模した的あてゲームの形式で実技を行うようにしている。

的については、くるくる回るカエルの的をＮＰＯ法人が開発し、９つある的に向かって放水し、すべてを回し終わる時間を競い合うというものである。

（写真７参照）

また、バケツリレーについても、当初は説明なしで実施してもらい、その後なぜ協力する必要があるのか、震災時にはどうだったのか、並び方などを説明し、クラス単位あるいは全校生徒で的となる大型バケツなどを満たす早さを競いあう。ここでは協力する大切さや、どのようにすれば早く水を送れるか、といった技術などを競技を通じて学んでもらう。

その他、ロープワークを学ぶメニューにおいても、ロープ結索をリレーで行ったり、毛布担架搬送では、運ばれ役となるカエルの人形（水入りペットボトルで重量を調節可）を使って搬送するなど、随所に楽しみながら学ぶための工夫が盛り込まれたものとなっている。

このようなメニューの多くは、先のＮＰＯ法人がイベントなどで実践してきた内容を取り入れており、子供向けメニューとして、学校だけでなく地域の訓練などでも実施可能な内容となっている。

８　地域と共に育む防災教育

今まで説明してきたガイドブックであるが、この度の完成に合わせて、地域のすべての自主防災組織に配布を行った。

消防、学校はもちろんであるが、地域の自主防災組織にこのような防災教育の冊子を配布することは全国でも初めてと思われるが、先に述べたとおり、この防災教育支援を自主防災組織の活性化策と位置付け、地域と学校が今まで以上に連携することで、防災教育の充実と共に、地域活動に保護者やＰＴ

Ａなど新たな参加者を呼び込むことができ、また地域活動に幅が出ることで、地域力（地域防災力）の強化が図れるものと期待している。

消防としては、上記の連携に必要なカードゲームやカエルの的などを地域や学校に貸し出す体制を取ると共に、地域あるいは学校から、それぞれ連携して防災教育を実施したいという問い合わせに対して、中を取り持つ形で支援を行っていく予定である。ガイドブックを小学校、地域、消防署でそれぞれ保有することで、この冊子を「共通言語」とした連携が、地域全体で図られていくことを期待している。

9　今後の展開

冊子が完成し地域に配布を行ってすぐの９月、自主防災組織の代表者、小学校教員、消防職員など約５０名を集めて、この冊子を使った初めての研修会を開催した。**（資料５「新聞報道」、写真８「研修会の様子」参照）**

研修会では、教育委員会事務局より小学校の防災教育体制についての説明やＮＰＯ法人によるメニューの紹介、呉市消防局の林氏によるぼうさいダックの実演講義など、１日かけて１０メニューを実際に体験していただいた。

参加した自主防災組織の方からは、「本当に楽しく実施できた。」「これなら地域に帰っても実施できそうだ。」「今まで学校とは連携してなかったが、この取組みを通じて今後は連携してやっていきたい。」などの感想をいただき、地域が学校を支援する今回の取組みについて、地域の方々の協力は可能であり、また、今まで実施していた訓練に加えて新しいメニューを実施しようという機運が高まるものと期待している。

今後は、このような研修会を市内各地で実施し、できるだけ多くの方々にメニューを紹介し、体験してもらえればと考える。

10　おわりに

この度の取組みは、震災の経験がある自主防災組織であることで実現可能となった側面もあるが、そうではない地域においても十分実施は可能であると考える。なぜなら、地域の自主防災組織や消防団では日頃から災害に備え各種の訓練を実践しており、そのような防災訓練メニューであれば小学校などで子ども達に教えることは、決して難しいことではない。

このような取組みが全国で実施され、将来の地域の防災を担っていくであろう子ども達が数多く育ってくれることを願ってやまない。

「冊子の主な内容」

資料１

1－3．防災福祉コミュニティとの連携

（参考資料：自主防災組織の説明）

3－5．消防・防災に関するＱ＆Ａ

（参考資料：消防・防災Ｑ＆Ａ）

「地しん」がおきたら
わたしたちの生かつはどうなるの？

（ワークシートの例）

「火災から身を守ろう！」

「阪神・淡路大震災を知る」①

（メニューの組合せの例示）

「一覧表」

資料２

2-1. メニュー一覧表

低学年（1、2学年）

	備考	震災の教訓を伝える	知識を伝える	技を伝える
クラス		地震のイメージを絵で描こう ★★★	ジェスチャーゲーム「ぼうさい・デック」 ★★★	揺ハウスを使用した避難体験 ★★☆
		絵本・紙芝居読み聞かせ ★★★	防災かるた ★★★	地震体験車「ゆれるん」 ★★★
			身近なキケンに気をつけよう ★★★	
			てんぷら油火災の実演 ★★☆	
学年	※ゲストティーチャーなど			
クラス・学年・地区		DVD「お助け犬・ボチ」 ★★★	防災人形劇「おたま劇場」 ★★☆	対決!バケツリレー ★★☆
			DVD「救急隊の仕事」 ★★★	
			防災○×クイズ ★★★	
			安全確認に一直線! ★★☆	
			神戸防災体験 ★★☆	

中学年（3、4学年）

	備考	震災の教訓を伝える	知識を伝える	技を伝える
クラス		日常生活と被災時の生活くらべ ★★★	防災かるた ★★★	サバイバル乾食器づくり ★★★
		絵本・紙芝居読み聞かせ ★★★	防災倉庫の中身なんにクイズ ★★☆	水消火器で的あてゲーム ★★☆
			持ち出し品なんにクイズ ★★☆	救急クイズ「こんなときどうする?」 ★★★
			わたしの家の防災検査 ★★★	揺ハウスを使用した避難体験 ★★☆
			通報訓練「ケガと火災は119!」 ★★☆	地震体験車「ゆれるん」 ★★★
			校内防災探検 ★★☆	
			防災カードゲーム「なまずの学校」 ★★★	
			防災すごろくゲーム「SUMAGURA TOWN」 ★★☆	
			身近なキケンに気をつけよう ★★★	
学年	※ゲストティーチャーなど ★★★		てんぷら油火災の実演 ★★☆	
クラス・学年・地区		DVD「お助け犬・ボチ」 ★★★	防災人形劇「おたま劇場」 ★★☆	毛布を使った簡易体験 ★★☆
		DVD「ORANGE」 ★★★	防災豆知識クイズ ★★☆	消火用ポンプを使用した放水体験 ★★☆
			いつでもじゃぐち ★★★	対決!バケツリレー ★★☆
			DVD「救急隊の仕事」 ★★★	
			防災○×クイズ ★★★	
			安全確認に一直線! ★★☆	
			神戸防災体験 ★★☆	

34

高学年（5、6学年）

	備考	震災の教訓を伝える	知識を伝える	技を伝える
クラス		日常生活と被災時の生活くらべ ★★★	持ち出し品なんにクイズ ★★☆	サバイバル乾食器づくり ★★★
		「1枚」しあわせ はこべるように」ができるまで ★★★	わたしの家の防災検査 ★★★	水消火器で的あてゲーム ★★☆
		絵本・紙芝居読み聞かせ ★★★	通報訓練「ケガと火災は119!」 ★★☆	消火器を使用した初期消火体験 ★★☆
			校内防災探検 ★★☆	「災害時に校舎つぶれる」の体験 ★★☆
			防災カードゲーム「なまずの学校」 ★★★	仮設トイレの設置 ★★☆
			防災すごろくゲーム「SUMAGURA TOWN」 ★★☆	救急隊員 ★★☆
			連絡カードづくり ★★★	ケガの手当てに挑戦! ★★☆
			身近なキケンに気をつけよう ★★☆	揺ハウスを使用した避難体験 ★★☆
				地震体験車「ゆれるん」 ★★★
学年	※ゲストティーチャーなど		てんぷら油火災の実演 ★★☆	避難所におけるトイレ/炊出しの模擬体験 ★★☆
クラス・学年・地区		DVD「ORANGE」 ★★★	防災豆知識クイズ ★☆☆	毛布を使った簡易体験 ★★☆
			いつでもじゃぐち ★★★	消火用ポンプを使用した放水体験 ★★☆
			地震は防げないけど、被害は防げる! ★★★	対決!バケツリレー ★★☆
			DVD「救急隊の仕事」 ★★★	
			防災○×クイズ ★★★	
			安全確認に一直線! ★★☆	
			神戸防災体験 ★★☆	

全校実施

	備考	震災の教訓を伝える	知識を伝える	技を伝える
全校	※ゲストティーチャーなど		安全確認に一直線! ★★☆	
			神戸防災体験 ★★☆	
			いのちのコンサート ★★★	

※印は外部の講師などの協力が多いなど取り組み難いメニューです。【★】印のメニューは特別メニューです。詳しくは本書子「3-1.ゲストティーチャー」のページもご覧ください。

35

「メニュー・解説編の例（防災カードゲーム・なまずの学校）」　　資料３

15

知識を伝える

震災時に起こる様々なトラブルの解決方法をカードゲームで学ぶメニュー　取り組み易さ…★★★

防災カードゲーム『なまずの学校』

震災で発生する様々なトラブルを紙芝居形式で出題し、手持ちのアイテムカードで解決する方法を考えます。「入手しやすさ」「使いやすさ」で得点に差がついており、高得点をめざして考えてもらいます。

ねらい　災害時に役立つアイテムを学び、臨機応変に創意工夫での対応する力も養います。

実施内容（所要：152ページ　資料：230ページ　所要DVD使用）

【事前準備】
・カード配りがスムーズにできるように、班毎に事前に手持ちカードを分けておきます。
・なまーずポイントがスムーズに配れるように10ポイントと50ポイントの山に分けておきます。
・プロジェクター、スクリーンの準備をします。（紙芝居の場合は不要）

【事前説明】
・ゲームの実施方法を説明します。
・高得点を獲得するためのポイントなどを説明します。（解説書参照）

【実施内容】
①なまずカード（アイテムカード）を配ります。
②プロジェクターに問題の絵を投影しながら出題します。
③もっとも相応しい答えだと思うアイテムカードを班毎に考えさせ、同時に出させます。

【答え合わせ】
④スライド（紙芝居）を順に送り、得点の低い回答から紹介します。なぜ、そのアイテムが有効なのかを順々に説明します。（※説明文はスライド面に、紙芝居の場合は裏面に書かれています。）回答にないカードが出された場合は、理由を聞き、内容によってはサービスポイントを出すなどの対応をします。

【結果発表・まとめ】
⑤すべての問題が終了すれば、高得点の班を発表し、みんなで拍手します。
⑥まとめの時間

指導ポイント

①どうしてそのアイテムが高得点なのかを説明（スライドあり）する必要があります。②正解に無いカードが出された場合は、考えたアイデアや創意工夫をしっかりと評価してあげましょう。災害時と同じく、臨機応変に考える姿勢がとても重要です。

70

15

連携ポイント

教職員だけでも実施がしやすいメニューです。

防災福祉コミュニティの関わり方

まず、ゲームの様子を見てもらいましょう。地域の防災活動としても実施可能なメニューです。2回目以降は連携しながら実施すると、よりよい内容の授業になります。

消防職員・消防団員のサポート

答えにない回答が出たときにコメントをお願いします。また、問題ごとに専門家としての意見をお願いします。

必要資機材（目安）　※借り受け先に必ず確認して下さい。

資機材名	数	準備可
なまずカード（アイテムカード）	1式	学校、消防
問題カード（紙芝居or画像データ）	1式	学校、消防
なまーず紙幣（ポイントカード）	1式	学校、消防
パソコン（必要な場合のみ）	1台	学校
プロジェクター（必要な場合のみ）	1台	学校
ポイント記入用紙（資料集「資料15-1」参照）	適数	学校、消防

家庭への持ち帰り

学習した内容（身近なものがどのように役立つか）を家に帰って保護者の方に話してもらうように指導して下さい。

このメニューに関する十αの知識

カードに描かれている道具は、手に入る場所も書かれていますので、自分たちの町に置き換えて、場所を再確認してもらいましょう。1つの問題に対して個人や1チームで個別に回答してもらう問題が中心ですが、参加者全員（若しくは全チーム）が協力して必要なカードを出し合い、困難を解決する「協力問題」が何問かあります。ゲームが盛り上がる問題ですので、1問は選ぼて出題するとよいでしょう。

ひと工夫

上段編で、ゲームを実施する前に、なまずカード（アイテムカード）を一斉に配るのではなく、「まちあるき」を実施し、防災資源があるところで関連する問題が出題され、回答するとなまずカードがもらえ、それをなるべく多く獲得してからゲーム会場に集まりゲームを実施するという方法もあります。事前に十分な準備が必要ですが、地域と連携して実施するときちんと充実した内容になります。実施を希望される場合は、消防署又はNPO法人プラス・アーツ（06-4400-6108）までご相談ください。

注意事項

上記の「まちあるき」形式で実施される場合は、交通事故などに対する安全管理が必要になります。

子どもたちの声

・楽しかった。家に帰ってもやりたいです。
・（落を描うもの）答えがラップだったのに驚いた。
・帰ってから「なまずの学校」のことを家の人にいっぱい話しました。
・知らないことがいっぱいあったけど、分かりやすくてよかった。
・地震のときには、教えてもらったとおりにします。

71

「メニュー・解説編の例（防災カードゲーム・なまずの学校）」　　資料４

15

メニュー名

防災カードゲーム『なまずの学校』

学習の目標

ゲームを通じてどんなものが災害時に役立つのかをみんなで話し合い、具体的な活用法について学ぶ

新学習指導要領との関連	家庭へのお持ち帰り
「社会科」　第3学年及び第4学年　内容(4) 「社会科」　第5学年　内容(1)イ 「総合学習」　例(1)(4)(5)(6)(7)(8)	・ ワークシート・資料等 15-1

時間割

導入	ゲームの実施	まとめ
10分	25～30分	5～10分

進め方（支援と留意点）	学習行動
【Ⅰ導入・説明（10分）】 ア　阪神・淡路大震災では、建物の多くが倒れたりして、たくさんの人たちが生き埋めになり救助されました。 イ　阪神・淡路大震災では、そのうちの多くの人が（消防など行政ではなく）地域の人たち（住民など）に助けられたことを話します。 ウ　「もし、消防車などが来るまでに、自分たちで助けたり、お手伝いしたりしなければならない時、どうしたらいいのか、考えてみましょう。」 エ　「今からやるゲームは、問題を聞いたあと、配られたカードから役に立ちそうだと思う物をチームで１枚選んで出すゲームです。」 オ　「ポイントは、身近にあり簡単に手に入る物や使いやすい物の方が得点が高いことです。覚えておいてください。 得点に応じて「ナマーズ紙幣（お金）」がもらえます。最後に合計得点を発表してもらうので、チームで高得点目指してがんばろう！」	○ゲームのルールを覚える ・状況に応じて手持ちのカードから役に立ちそうなものを出す ・身の回りにある使いやすいもの、すぐ手に入るものが高得点 ・意外なものが役立つかもしれないので話し合って決める お題に加えて、紙幣の配り方（代表者に取りに来てもらう、補助者に手伝って配ってもらうなど）を決めておくと進行がスムーズにいきます。
【Ⅱゲームの実施（25～30分）】 ア　問題は全部で１４問あります。時間に応じて出題数を調整してください。 イ　問題は穴埋形式になっています。１枚目が問題で、２枚目以後が得点の低い順から正解を発表するようになっています。資料１５－１にそれぞれの解説がありますので補足で説明してください。 ウ　基本的に、出題及び回答については、裏に記載している文章を読むだけでどなたにでも進行できるようになっています。 エ　問題を出した後、チームで話し合ってもらい、時間	○ゲームを実施する ・全１４問 人数に応じて、必要なら問題をスクリーンに写すなど見やすくすることもできます。

152

15

を決めて１枚カードを出してもらいます。その後正解を順番に発表し、その都度該当するチームに紙幣を配ります。すべて終われば次の問題に進みます。 最後にチームごとの総得点を発表し、最高得点のチームに拍手しましょう。 オ　問題によっては、正解でないカードを選択するチームがあるかもしれません。この場合、そのチームの代表者に選んだ理由を説明してもらい、選んだ理由が納得できるものであれば、50ナマーズ紙幣程度を特別にあげてもいいでしょう。独創的な意見を尊重してあげてください。	○問題ごとに班で答えを話し合い、発表する ・なぜこれだと思ったのか ・どうやって使うのか ・正解を聞いた結果どう思ったか
【Ⅲまとめ（5～10分）】 ・今回のゲームは、実際に阪神・淡路大震災を体験された方々の話から作られたものであることを説明します。 ・実際の災害では、なかなか必要な物が手に入れられないことがあるので、普段からどんなものが役立つのかや、どんなものを準備しておく必要があるのかを考えておき、さらに、問題が発生したときに身の回りにあるもので臨機応変に対応することの重要性などを家庭で話してもらい、意外なものが役立つことなどを家族に教えてあげるよう子ども達に伝えてみてください。 ・その他教員からのまとめの話を行ってください。	震災では身近な物を活用し、実際にカードのような物が使われたことを説明します。

副読本や他メニューへの広がり・関連

・震災副読本『しあわせはこぼう』1･2･3年用（26．ひなんリュックを作ろう）
・　〃　『命を護ぼう』4･5･6年用（15．一人一人の力を一つにして）
・　〃　（25．水道もガスも電気もなかったら）
・防災教育副読本『明日に生きる』4･5･6年生用（ひきさかれたライフライン）

【他メニューへの広がり】

<地震への備えを知る>
・メニュー9『防災かるた』
・メニュー10『防災倉庫の中身なぁに？クイズ』
・メニュー11『持ち出し品なぁに？クイズ』
・メニュー16『防災すごろくゲームGURAGURA　TOWN』
<地震への技を知る>
・メニュー28『水消火器で的あてゲーム』
・メニュー29『毛布を使った搬送訓練』
・メニュー32『災害時に役立つロープ結びの体験』
・メニュー39『対決！バケツリレー』

153

（２００９年９月１４日　K新聞朝刊）

新聞　（第３種郵便物認可）

防災知識楽しく伝えて

9地区の住民50人　児童向け教材で研修

児童に防災を分かりやすく伝える指導者を育成しようと神戸市消防局などは13日、市防災コミュニティセンター（長田区北町３）で研修会を開いた。市内９地区の自主防災組織などから約50人が参加し、災害時のけが人の救出方法や消火活動を学んだ。　（有島弘記）

熱心に防災カードゲームに取り組む参加者＝市防災コミュニティセンター

長田区

研修では、子どもの防災教育支援ガイド「ＢＯＫＯＭＩスクールガイド」を使用。阪神・淡路大震災の教訓を生かそうと、市消防局や市防災安全公社などが製作し、児童が楽しく学べるようゲームやすごろくによる授業41例を紹介している。

ガイド本普及のモデル地区に指定された９地区の役員らが、担架作りやバケツリレーなど10コースを体験。防災グッズを選ぶカードゲームでは、毛布や懐中電灯などのイラストが書かれたカードを配布。「がれきの下敷きになった人を救出する際に必要なのは」「トイレを作るには」といった課題に、住民らは相談しながら手持ちのカードで可能な対応を考えた。

同区の若松地区防災福祉コミュニティの松井謙治さん(71)は「子どもが楽しめる内容が多く、地域の防災訓練にも取り入れたい」と話していた。

中央区

社会科研…

コミスタ…児童の作…

小学生が夏休みに取り組んだ自由研究を集めた「市小学校社会科作品展」が中央区吾妻通４、コミスタこうべで開かれ…

（２００９年９月２７日　M新聞朝刊）

毎日新聞

小学校教員ら向けの教育支援ガイドブック作成

防災　明日に備える

次世代への「共通ツール」に

防コミ、消防、学校などが連携

神戸市消防局や市教育委員会、NPO法人などが、小学校教員ら向けの防災教育支援ガイドブック「BOKOMIスクールガイド」（A4判、31ページ）を作成した。阪神大震災以降、小学校などが地域と取り組んできた防災教育の活動事例をまとめ、41のメニューとして例示。学校や地域、消防が連携して震災の教訓を次世代に伝える「共通ツール」としての役割が期待されている。【[illegible]】

研修会で防災カードゲーム「なまずの学校」の実演に取り組む参加者ら　＝神戸市消防局提供

[illegible]

41の防災教育メニューがまとめられた「BOKOMIスクールガイド」＝神戸市消防局

（写真１）平成１９年度防災教育支援プログラム

（写真２）モデル授業（防災○×クイズ）

（写真３）防災教育支援ガイドブック（表紙）

（写真４）カードゲーム「なまずの学校」

（写真５）防災すごろく「ＧＵＲＡＧＵＲＡ　ＴＯＷＮ」

（写真６）ぼうさいダック

（写真７）水消火器で的あてゲーム

（写真８）研修会：ぼうさいダック体験